

2017 年度精密工学会春季大会関連事業
「新技術講演会－産学・産産連携への集い」実施報告

精密工学会では、平成 23 年度から産学連携と産産連携を支援する講演会を始めました。これは企業の皆様に精密工学分野の研究機関との共同研究や関連企業とのビジネス交流の機会を提供させていただくもので、本年度の春季大会でも初日の 3 月 13 日に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催しました。

本年は 2 部構成をとり、第 1 部ではニューテクノロジーフォーラム「日本の製造業における技能と技術の現状とその展開」を開催、第 2 部では「先端企業・技術紹介セッション」を開催しました。夜の部の技術交流会（懇親会）では、大学・公設研究所の研究者および参加企業の皆様の交流を行いました。講演会には 100 名、技術交流会には 52 名もの多くの皆様にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

第 1 部 ニューテクノロジーフォーラム「日本の製造業における技能と技術の現状とその展開」

第一部は、日本が優位な技能及びその技能と技術の融合による新しい付加価値の提示をめざした講演を行いました。まず、精密工学会「賛助会員の会」春日前会長（セイコーインスツル株式会社）のご挨拶に続き、職業能力開発総合大学の垣本映様より「日本の技能・技術（技能五輪を例に）」と題して基調講演をいただきました。講演では、



講演の様子

技能五輪全国大会、国際大会を通じた人材育成と日本の技能者の素晴らしさ、活躍の様子について具体的にご紹介いただきました。つづいて、日産自動車株式会社の宮越義浩様より「日産 GT-R エンジンにおける「匠」と技術」と題して、GT-R エンジンの超高性能を生み出す 5 名の「匠」メンバーによる手作業での組立ての様子とそれを継承する人材育成についてご紹介いただきました。次に、BKK クートンカービィ社の相川英一様より「冷蔵庫用コンプレッサ製造における技能・技術の展開」と題して、ロー付け作業技能者育成やその後の自動化への変遷の事例等過去家電メーカーで行われたすばらしい技能・技術の進展と融合についてご紹介いただきました。最後に、セイコーインスツル株式会社の内山博紀様より「高付加価値を生み出す匠の技－グランドセイコー/クレドールのもの創り－」と題し、「現代の名工」が生み出す精密加工の技の数々について、平賀聡様による時計組立の実演、ならびに照井清様による彫金の実演を交えながら具体的にご紹介いただきました。いずれのご講演も極めて高い技能と技術に関する興味深い紹介であり、大入りの聴講者と活発な議論が今後の産学・産産連携の一層の発展を期待させるものとなりました。

第 2 部 「先端企業・技術紹介セッション」

産学・産産連携の強化と賛助会員相互の交流を深める目的で、精密工学会技術賞を受賞された 3 社にその高い技術をご披露いただきました。最初に安武副会長（大阪大学）よりご挨拶と本会技術賞についてのご説明をいただいた後、以下の技術賞受賞講演が行われました。

- ・「目視検査作業の機械化を目指した人の検査メカニズムのモデル化」 中京大学 興水大和様
- ・「リアルタイム熱変位補正システムの開発」 株式会社ジェイテクト 岩井英樹様
- ・「高集積化電子部品の検査精度向上を実現する超音波観察像の鮮鋭化および微細欠陥検出技術の開発と実用化」 株式会社日立製作所 酒井薫様

活発な質疑応答と会員相互の意見交換を深め、最後に、精密工学会「賛助会員の会」新会長の家城淳様（オークマ株式会社）よりご挨拶を頂き、盛況のうちに講演会を終了しました。



「賛助会員の会」春日前会長挨拶



垣本様の講演



宮越様の講演



相川様の講演



内山様の講演



平賀様の時計組立実演



照井様の彫金実演



興水様の講演



岩井様の講演



酒井様の講演



「賛助会員の会」家城新会長挨拶



技術交流会の様子

技術交流会

講演会終了後、学内の「ラ・ポワール」に移動して講演者と参加者の技術交流会（懇親会）を開催しました。参加者は52名でした。春日前会長の挨拶と乾杯の発声のあと、1時間半ほどでしたが情報交換の場として歓談の尽きない会となりました。

最後に

学術講演会と並行した企画行事として、産業界、官学界の参加者を得て、産学・産産連携に向けた有益な情報交換イベントとすることができました。これを契機に多くの連携活動が生まれることを期待するとともに、今後もこの企画を通じて交流の機会を作って参りたいと存じます。

文責：松井 伸介（「賛助会員の会」運営委員会幹事）